

【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

老後の生活を快適に過ごす 3 つのポイント

発行者：牧野 F P 事務所合同会社 代表社員 牧野寿和

牧野 F P 事務所 公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

<第 456 号の目次>

■ 今週のテーマ

老後の生活を快適に過ごす 3 つのポイント

■ 「人生の添乗員 (R)」からのワンポイントメッセージ

■ 「人生の添乗員 (R)」牧野寿和のプロフィール

■ 編集後記

それでは、

今週のテーマからはじめます。

*:**

■ 今週のテーマ

老後の生活を快適に過ごす 3 つのポイント

*:**

今回は、
コロナ禍で大きく社会の情勢が変わっている中で、
老後の生活を、

快適に過ごしていくためのポイントを3つ、お伝えしてまいります。

老後とはだれのこと？

まず、ここでの老後とは、
主な家計の収入が公的年金である
ご本人とその配偶者とします。

では、3つのポイントを順にみていきます。

ポイント1 世の中は常に変化することを受け入れる

コロナ禍前の生活に早く戻りたい。
というはなしを聞くことがあります。

確かに、感染しないように、
絶えず注意をして行動することは、
心身ともに疲弊します。

早く元の生活に戻りたい、
とだれもが思っていることです。

しかし、家計の運営に関しては、

年中マスクのストックを購入しておく、
といったコロナ禍対策費用は別として、
家計の支出と収入には、
大きな変化はなかったと思うのです。

ただ、家庭によっては、
毎年行っていた旅行に行けなくなり、
支出額が減った家庭もあるでしょう。

反対に、新しい趣味を見つけて、
その費用が必要になった家庭もあるでしょう。

コロナ禍がきっかけでの変化ではありますが、
このような、家計収支の変化は、

コロナ禍がなくても、
また、今後収束後にも起こりうる、
対応すべき通常の変化だと思うのです。

これまでの生活を思い出してください。

私たちの生活は、常に変化しています。

スマホが普及してくれば、
スマホの機能に即した生活が求められます。

もっと昔を思い起こせば、
かつて銀行のATMが普及して、
・定期預金を開設する
・自分の口座に入出金をする
・振込みをする
といった、銀行の窓口業務が、
ATMで操作できるようになりました。
またATMですが、
当たり前の世の中になりました。

コロナ禍が収束したあとに、
コロナ禍でどんなことが起こっていたのか、
検証することは必要です。

大局的に考えると、

世の中の進化の過程だと考えて、
もはや元に戻るとは考えない方が良いでしょう。

根本的には、
生涯に渡り、世の中の変化を受け入れて、
その生活に慣れていくことです。

ポイント2 家計収支を把握する

ただ、世の中は絶えず変化していくのですが、
年金の受給額は、微動にしか変化しません。

家計の収入はほとんど変わらないのです。

しかし、コロナ禍が収まってくると、

世の中の活動が再開されます。
ただ、景気の回復は、
コロナ禍以前からの日本経済の課題でした。

従って、通説ではありますが、
現在停滞気味の産業を復活させることも含め、
経済活動を活発にするために、
景気をよくすることは近々の課題でしょう。

景気をよくする方法は色々ありますが、
私たち消費者にとっては、
給与や賃金が上がること、
そして、物価が上がることです。

こここのところ既に、
一部の食品の値段が上がるのが、
報道されています。

しかし、報道されている価格を、
ただ値があがるから大変だ！
と考えるのではなく、

例えば、いつも買っている食料油が、
1 ボトルにつき 50 円値が上がるとすれば、
その食用油を
年間何本購入しているのか計算してみましょう。
例えば 4 本であれば
 $50 \text{ 円} \times 4 \text{ 本} = 200 \text{ 円}$

その家庭にとっては年間 200 円の値上がりは、
対応するべきでしょうか？
不要と結論付ける方も多くいるでしょう。

また、牛乳 1 パックが 20 円値上がりするなら、
毎月 6 パック買っているのであれば、
 $20 \text{ 円} \times 6 \text{ 本} \times 12 \text{ カ月} = 1440 \text{ 円}$
年間で 1440 円の値上がりです。

年間 1000 円以上の値上がりは、
耐えられないけど、
今まで通りに牛乳を買いたいのであれば、
定期的に購入していた牛乳以外の商品で、
1440 円分購入を今後止めるか、

貯蓄からその分を取り崩すことにするか、
対策が必要になります。

対策を打つにしても、
対策を打たないにしても、
そのベースとなる指針は家計収支の動向です。

老いても家計を把握することは、
老後の快適な生活を送るために、
生涯必要なことなのです。

ポイント3 自身の資産の処分

現在お持ちの資産のうち、
株式、投資信託といった金融資産は、
容易に売買できます。

しかし、自宅といった不動産資産は、
簡単に売買はできません。

例えば、現在築古の持ち家に夫婦で住んでいて、
子どもたちはすでにほかのところで、
マイホームを持っている家庭で、
ご自身や夫婦が亡くなったあと、
誰もこの家に住む予定のないときは、

この家を、
・売却するのか
・孫が済むのか
・リフォームして賃貸にするのか
といった対策を、
持ち家以外にも資産を持っているなら、
その資産を含めた分割方法を、
親や子で考えておくことが必要です。

対策が決まったら、そのための費用を
捻出することが必要になります。

子どもが費用を負担することが無理な場合は、
親がそのための費用を負担するのですが、
ここをあいまいにしたまま親が亡くなると、
後に、固定資産税の納付など、
子ども家族により大きな負担がかかります。

また、複数の子どもがいると、
資産の分割を含めて、
子どもたちに本来する必要ない、
争族が始まりかねません。

親、ご自身の持ち物ですから、
立つ鳥後を濁さずのごとき、
後始末はしっかりしておきましょう。

いつの時代でも先を見る

このように見てくると、
老後を快適に過ごすためには、

コロナ禍のために特別なことは、
その一定の時期であり、

常に世の中の変化に対応すること、
また相続の準備をすることは、

快適な老後の生活を送るために、
今までの世の中と変わらないのです。

■「人生の添乗員（R）」からのワンポイントメッセージ

老後の生活を快適に過ごすには、

可能な限り、

老化防止の頭の体操としても、

家計収支を把握する生活を続けましょう！

■人生の添乗員（R）牧野寿和のプロフィール

日本で唯一「人生の添乗員（R）」を名乗れる

公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー

創業 18 年目

1958 年 名古屋市生まれ、大学（東海大学卒業）以外は、名古屋で生活をする。

1982 年～2001 年 旅行会社に勤務。業務で世界各地を廻っていた時、日本の方と他国の方々のお金との付き合い方の違いを感じていた。そんな時渡米した折に、初めてファイナンシャルプランナーの存在を知り、日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003 年 牧野 FP 事務所を創業。
2018 年から牧野 F P 事務所合同会社を設立。

これまでに、延べ 900 件以上の様々な相談に対応。

現在は、相談者へのプランニングの助言と提案を主な業務とし、

相談者に、安心できる生活が送れるように、

丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・ NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ（FP）協会 CFP（R）認定者
- ・ 1 級ファイナンシャル・プランニング技能士（資産設計提案業務）
- ・ 福祉住環境コーディネーター
- ・ 総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ～テレ（名古屋テレビ）「UP！」

<執筆>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない！
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談は、名古屋市内はもとより
愛知、岐阜、三重県、
首都圏や関西にも
リモートでお会いする機会が増えました。

「人生の添乗員（R）」は、

他人を気にすることなく、
相談者ご自身にとって
有益な提案を心がけています。

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:

■編集後記

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:

歳を取れば、

今までの生活で培った、

生活の知恵が身についています。

老後の生活でも、

自立した生活ができる間は、

生活のリズムを変えることなく、

悠々自適の生活を楽しみましょう！

【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

来週もご愛読のほど、
よろしくお願い申し上げます。

「人生の添乗員」「人生の行程表」は牧野寿和の登録商標です

■ 【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

発行：

牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

■登録・解除は、ご自身でお願いいたします。

こちらから出来ます。

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

■本メルマガに関するご意見・お問い合わせはこちらまで
お願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社 公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

■記事内容に関してのトラブル等について当方では一切責任を負いかねます。
ご自身の責任でご判断下さい。
